

## 会 議 記 録

令和4年度第3回中央区子ども・子育て会議 会議録（要旨）

名 称	令和4年度 第3回 中央区子ども・子育て会議	
開催年月日・場所	令和5年3月17日（金） 午後6時30分から 中央区役所8階 大会議室	
出席者	委員	大竹智（会長）、新藤こずえ（職務代理者）、大戸秀恭、守田亜希子、佐藤みどり、山口晃司、上笹遼、織茂ちあき、高原友美、藤丸麻紀、太田明実、萩原裕子、箱守由記、田中智彦、渡瀬博俊、生島憲
	区側出席者	福祉保健部子育て支援課長 福祉保健部保育課長 福祉保健部副参事（保育指導・特命担当） 福祉保健部子ども家庭支援センター所長 福祉保健部健康推進課長 教育委員会事務局庶務課長 教育委員会事務局学務課長 教育委員会事務局指導室長 福祉保健部子育て支援課計画推進等担当係長
配布資料	資料1-1 子育て支援に関するニーズ調査・ひとり親家庭実態調査実施概要 資料1-2 子育て支援に関するニーズ調査報告書（概要版 平成30年度実施） 資料1-3 ひとり親家庭実態調査報告書（概要版 平成30年度実施） 資料2-1 令和5年度予算子育て支援施策関係概要 資料2-2 令和5年4月保育所等利用調整結果 資料2-3 令和5年度学童クラブ利用児童申請状況	
議事の概要	<p>1 開 会</p> <p>2 議 題</p> <p>（1）第三期中央区子ども・子育て支援事業計画策定に向けた実態調査の実施について</p> <p>（2）報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度予算子育て支援施策関係概要</li> <li>・令和5年4月保育所等利用調整結果</li> <li>・令和5年度学童クラブ利用児童申請状況</li> </ul> <p>3 閉 会</p>	

# 1 開 会

## 2 議 題

### (1) 第三期中央区子ども・子育て支援事業計画策定に向けた実態調査の実施について

事務局から資料1-1、1-2、1-3について説明が行われた。

委 員 標本数のうち、小学校児童を持つ保護者が約4,800人で前回の3,500人から約1,300人増えているが、抽出数の考え方は変えていなくて、単純に5年の間で対象者が増えたという理解でよいか？

子育て支援課長 抽出の考え方は前回と変えておらず、5年前に比べ対象人口が増加していることが要因となる。

職務代理者 前回の回答率が50%を超えてるのは、学識経験の立場から見てもかなり高いと考える。その分関心が高いということだが、回答されなかった方は声がないというわけではなく、拾えてないということもあるので、新たにインターネット回答も活用し、利便性を高めて回答率をさらに向上させるのは良い取り組みだと思う。

また、抽出した意見がどう計画に反映されていったかを示すことがとても重要であり、説明する機会や、資料等で示していくことが必要と考えている。前回のニーズ調査（資料1-2）の4ページで、「何かあったとき子供を保護者に代わって見てくれる親族・知人の有無」という質問で、いずれもないというのが28.7%という数字になっている。親以外に誰も見てくれる人がいない、これは特に中央区などの共働きの御家庭の多い都市型の自治体の特徴だと考える。こういう調査結果に対して、対応する施策としてどういうものがあるかを、ニーズ調査の結果に対する対応のとして説明する、あるいはこういう政策に反映されたというようなことを示せると良い。そういう意味で、この数字はとても重要と感じた。

会 長 ご意見のとおり、調査は実施することが目的でなく、結果を分析し、課題解決に向けてどう取り組んでいくか検討し、計画に反映していくことになる。今後調査実施、計画策定に向け議論していくが、委員の皆さまには各団体の代表、子育て当事者の代弁者として活発な議論をお願いしたい。

### (2) 第三期中央区子ども・子育て支援事業計画策定に向けた実態調査の実施について

事務局から資料2-1、2-2、2-3について説明が行われた。

委 員 資料2-3について、民設民営のベネッセ学童クラブ月島の申込者数が少ないという理由は、やはり利用料金が高いことが原因か？

子ども家庭支援センター所長 現在、事業者と分析を行っているが、区立学童クラブが無料である点や、児童館の中にある学童クラブと比べて日中の過ごし方の観点から希望が少ないと考えている。引き続き分析を進めていく。

職務代理者 資料2-1の、令和5年度から新たに学校給食、保育園の副食費を無償化することについて、物価等が高騰する中で、普遍的な子育て支援として大変意義のあるものだと考えている。質問として、東京都内でも無償化を実施してい

ない自治体もある中、中央区で無償化に踏み切るに当たり、どのような議論がなされたか、また、課題があれば教えてほしい。

2点目が資料2-2について、保育園の利用を希望しながら未決定の方が第2回の利用調整結果でまだ354人いる。この方々に対してどう対応をしているか、また、ほかにどのような預け場所があるのかというところをお聞きしたい。

3点目が資料2-3について、学童クラブも271人が未決定ということで、未決定者に「プレディ」を紹介するということだが、希望すれば必ず利用できるかを確認したい。

学務課長

給食費無償化に至った経緯については、コロナ禍に加えて物価高騰により、子育て世帯の負担が大きくなっており、その負担を軽減するために学校設置者として迅速に対応ができること、また、教育的な観点から、物価高騰等の経済的な情勢に影響を受けることなく、安定的に学校給食を提供できることは子供たちにとっても非常に意義があるということから今回新たに給食費無償化を実施することとした。

課題としては、現在給食を実施していない区立幼稚園についてどのような対応を取っていけるか。この点については、今後子育て支援施策を総合的に検討する中で、検討してまいりたい。

保育課長

保育園の未決定保留者354人には、転園希望の方、育児休業を継続しても良いという落選希望の方も含まれている。概ね220名おり、差引くと130名程度の方が、本人の意にかなわず保留となっている。

今回4月の利用調整が終わった時点での空き状況、各保育園全体での歳児別の空き状況を見ると、0歳児で110名、1歳児では131名分の空きがあり、希望園と空いている園のマッチングという部分で希望に沿えてはいないが、受け皿としては十分確保できている。保留者にご案内していることとしては、各園の空き状況をホームページで公表し、希望する園とその周辺の園も含めて空き状況を確認できるようにしている。併せて、例えば期間限定保育や居宅訪問型事業、認証保育所、事業所内保育事業等の保育サービスがあり、それらを一覧にした資料を保留通知に同封して、4月以降の保育の確保をしていたくようお願いしている。また、4月以降の保育をどうされたか確認するアンケートも同封しており、その結果を基に待機児童を集計している。

子ども家庭支援センター所長

学童クラブの未決定者271名の方にご案内している「プレディ」については、定員設定がなく、希望すれば全員登録し、利用することが可能。令和4年の4月1日では、243人の未決定者のうち7割に当たる176名が「プレディ」を登録し利用した。低学年の子供たちは「プレディ」に通い、3年生以上の子供たちについては、塾や民間の学童に行かれたり、自宅で留守番をして過ごしていると考えている。

委 員

先ほどの給食費無償化の件で、幼稚園で給食を実施していないことが課題ということだったが、どこまで検討されているか伺いたい。

学務課長

昨年7月に、区立幼稚園に在園されている方の全保護者、新たに小学校1年生となった新入学児童の全保護者の合計約2,900人の保護者を対象にアンケート調査を実施した。「幼稚園であったら良かったサービス」を質問したところ、弁当を含む給食の提供と、預かり保育の需要が高かった。実際に近隣区の私立の幼稚園において、幼稚園での教育のプラスアルファのサービスして給食や預かり保育を実施し、一定の子供たちを園児として迎えているという状況については認識している。この点については、先ほど説明の通り、子育て支援施策を総合的に鑑みて検討していく必要があると考えている。

委員

保育園の待機児童が減っているということだが、区のホームページに掲載されている各園の空き状況を見ると、数名しか入ってない園や、1歳児から5歳児まで入園希望がなく、数名の0歳児の入園希望しかない保育園もあり、園ごとにかなり差がでてきていると思う。コロナ禍で見学を断ったり、必要な広報が不足している等の要因が考えられるが、あまりに定員に満たない園が多いと、せっかく増やしたのに経営が立ち行かなくなり廃園となる園が出てしまわないか危惧している。そういった保育園に対して、区としてどう働きかけをしているか伺いたい。

また、資料2-3について、私は子供が4月から小学校に入学する。周囲から一番困ることとして、2年生になると学童クラブに入れれないという話をよく聞く。3年生からは皆さん塾に通われるらしく、学童クラブへのニーズがぐっと下がるが、1年生、2年生のときはどこかで預かってもらえたら大変助かる。入れない方には「プレディ」があるということだが、子供の居場所という観点から、継続的に同じ大人が関わっていくことが重要と考えている。1年生の間は学童クラブ、2年生になったら「プレディ」というのは、数字上、居場所は確保できているとは言えるが、質の観点からも、継続的に子供と関わられたほうが良いと思っている。来年度も月島地域で学童クラブを増設する計画があるとのことだが、日本橋地域も2年生以降はなかなか入れれないという現状があるので、日本橋地域等でも、学童クラブの増設を検討してほしい。

保育課長

保育園の定員については、年度途中の入園もあるため、一定程度の空き数は必要と考えている。昨年も月平均約190件ぐらい入園申込があり、5月以降では年間で1,400件弱の申込があった。特に0歳児に関しては、7月から9月ぐらいには定員に達し、それ以降は待機していただくという状況となっている。したがって、年間を通した受入れを考えた場合には、4月時点では、余裕をもった対応が必要と考えている。一方で、委員ご指摘のとおり空きが多過ぎると園の経営に影響が出ることは十分承知している。区としては、特に新規開設の園はすぐには埋まらないので、3、4、5歳児は定員を少なめに設定してスタートしている。今後、晴海フラッグの入居開始による大きな需要の山があり、中央区の令和5年1月現在の人口推計では、0歳児は令和15年までの推計で、2,400人ぐらいまで増えていくという状況。そういったところを見定めながら

定員を設定し、必要数を確保しなければいけないと考えている。その中で、事業者とも保育の実情や地域の保育需要、将来的なニーズの見通し等を協議しながら定員設定をしているが、コロナの影響等により申込が減っているという状況もあり、定員調整だけではなかなか難しい状況にある。今後計画を見直す中で、空き定員の有効活用といった観点もあると思うので、そういった点も踏まえて、適切な定員設定について考えていきたい。

また、保育の質を確保するため、職員の配置加算に対し補助金を用意している。補助金を活用し、人員配置と定員をバランスよく設定するよう事業者には情報提供している。

子ども家庭支援  
センター所長

学童クラブは、希望をされた方が皆さん入れる状況がベストであり、待機児童については、区としても大きな課題であると考えている。

本年2月に「基本計画2023」を策定し、向こう10年の中央区の姿を示したが、その中でも都心区での新しい放課後児童対策として、現在は児童館併設で実施している学童クラブを今後は小学校の中に設置し、放課後子供教室「プレディ」との一体的な運用とすることを方向性として位置づけた。具体的な検討は、4月から担当の管理職を置き進めていく。整備スケジュール等はまだお示しできないが、現在12校で行っている「プレディ」のある小学校の中に学童クラブを順次設置することで定員の拡大を図り、待機児童を解消していくことを考えており、これにより、日本橋地域の待機児童解消を進めていきたいと考えている。ただ、令和6年の晴海フラッグの入居開始までには、小学校の中への学童クラブ設置が間に合わない状況であり、その対策として、令和6年4月に民間学童クラブを誘致する。放課後対策全体としては、そういった方向性を現在打ち出して検討を進めている。

委 員

資料2-2の保育園の利用調整結果を見て、昨年よりも希望者、申込数が減っている中、公立保育園がまず人気があり最初に埋まり、私立保育園はその後に埋まるので、空きが多いのはとても課題と感じている。未決定者が300人いるが、私立保育園を希望してもらうためにどうPRすればよいか等を私立園長会でも話している。空き定員が多いと経営が難しくなるが、職員の配置を手薄にするわけにもいかず、行政からの補助金がないと保育士の給料も大変であり不安を感じている。私立保育園にも入ってもらえるような周知、案内ができれば良いと考えている。

また、先ほど話があった空き定員の有効活用について、具体的にどう活用していくか伺いたい。

保育課長

他の自治体では、例えば一時預かり事業を行ったり、国では、保育園の空きを地域の子育て支援に活用するという考え方があると聞いている。また、就労要件を問わずに保育園を利用できるようにするという事業も国では考えているというところもあり、いろいろな取組があるが、中央区で具体的に決まっている内容はなく、先ほどの説明のとおり、今後の計画の中で、保育園とい

う資源の子育て支援に対する全体としての有効活用、それも定期的に定員の空きがあるのであればそこを使っていく方策というのを考えていきたい。

委員

私は今年下の子が生まれて育休を取得した。復帰後はテレワーク中心に仕事をしているが、妻が育児の中心となってしまっている。育児をしている中では育児疲れ等もあるので、先日一時預かりを利用しようとしたが、事前の登録や面談、実際に預けに行くのにハードルが高くて利用を諦めてしまった。必要なプロセス等あるかと思うが、より容易に一時預かりを利用できると非常に良いと思う。

また、私の知人には、晴海から日本橋地域の保育園まで1年間通った人がいて、大変負担が大きかったと聞いている。住まれる地域と通わせたい保育園のアンマッチを少なくすることが大事だと思う。

最後に、ある保育園では4歳児クラスは一人しかいない、同年代で話ができる子がないから、夏には別の園まで遊びに行っていると伺った。クラスに一人しかいないとか、1歳児クラスに申込がなく、数年後その歳児がゼロになったりすると、子供の育ちにも影響が大きいので、いかに空きを減らすかについては、行政と事業者の双方で知恵を出し合ってほしい。今後晴海フラッグの入居が始まるが、同地区の保育園に入れず、月島まで通わなければならない等の問題も考えられる。遠くの保育園でも通わせたくなるようなメリット等があると、2、3年後に、保育園に空きが出てしまうということにはならないと考える。

委員

先日延長保育を実施している幼稚園の評議員会に参加した際、延長保育の利用手続が非常に煩雑で、担任の先生の負担もとても大きくて、なかなか利用枠が埋まらないという声を聞いた。延長保育があるからその幼稚園に通っている保護者もたくさんいると思うので、利用者が利用しやすいシステムになれば、もう少しうまく機能するのではないかと感じた。

学務課長

幼稚園の預かり保育については、各園で定員30人という枠で実施しており、そのうち、1か月の中で何日でも利用できる枠が24人分あり、残りの6人分については、歳児によって状況が異なり一概には言えないが、空きがあれば一時利用という形で利用が可能としている。ただ、現場の状況として、直前でのキャンセルが頻繁に発生しており、空いた枠を追加で受け付けるタイミングが間に合わず、結果として空きとなってしまっている。だからといって、数日前までの申し込みとして、それからのキャンセルは不可という運用にするわけにもいかない。この点については、利用者の需要と供給のバランスを今後とも考えながら実施していきたい。

会長

私の教え子が別の区の公立保育園に勤務しているが、そこでは来年19人の定員の内、15人が配慮の必要なお子さんたちで、私立では預けることができず、公立の保育園に入園し、子供の数より多くの支援員がついているという状況のようである。中央区では、こういった配慮が必要なお子さんや、医療

的ケア児の入所という点でどのような対応をしているか。

保育課長

現在入園している方で、配慮の必要なお子さんは約30名いる。そのお子さんに対して、補助として支援員を配置する場合と、そこまで至らない場合がある。

利用調整の申込の際には、基本的に希望園を優先して申し込んでいただいております。申し込み時に、例えば園の状況として、区で把握する配慮の必要なおこさんと同じクラス、あるいは他のクラス、上のクラスでもいるということであれば、面談の際にそういった園の実情や施設面で、そのお子さんにとって十分な配慮、保育ができるかをお話しし、状況をご理解いただいた上で、入園していただいている。特にアレルギーをもつお子さんについては、人数や対応状況について園から報告があり、そういった中でお子さんを保育することが適切かどうかというのも保護者にも十分説明しながら、利用調整をしている。

また、日常的に保育の中で医療的ケアが必要なお子さんは、私立園で2名、公立園で1名いる。医療的ケアについても、対応ができる人員、施設・設備の問題があるので、面談の際に状況を十分に説明し、利用希望のタイミングや場所等を相談をしながら進めている。現在の医療的ケア児3名は別々の園で預かっているが、やはり1園に複数となると園側も受入れが難しくなるので、そこは十分配慮しながら、園とも相談して実施している。

子育て支援課長

保育課長からの説明のとおり、いわゆる軽度な医療的ケア児のお子さんについては、それぞれの園で保護者の希望をもとに、利用調整という形で申し込みいただいている。補足として、中度、重度のお子さんについては、居宅訪問という形での保育サービスを行っているが、それに加えて、資料2-1の「17育ちの相談・サポート機能等の充実に向けた施設の再編整備」に記載があるが、令和6年の4月から、区立明石町保育園に医療的ケア児専用の保育室を別途整備し、一般の保育園でなかなか入所が難しいお子さんの受入れを始める予定である。

委員

産後鬱等の病気を抱えてフルタイムで働いていない母親は、保育園に預けるのにハードルがあると感じている。病気を抱える保護者は、育児をする上で困難がつきまとうが、そういう方が保育を希望した場合に、保育園をどのように利用したら良いか伺いたい。

また、幼稚園を希望した場合、延長保育を実施している園が限られていて、結果的に保育園を利用せざるを得ないという状況が中央区の現状だと思う。在宅勤務が非常に増えているが、延長保育を実施していない幼稚園に預けるのは、働いている身からすればそれでもなかなか難しく、こういった形で幼稚園に預けたいというニーズをつくっていくのかを伺いたい。

保育課長

産後鬱を含めた病気やけがなどでお子さんの保育ができないということであれば、疾病として保育園の申込要件に該当するので、そういった症状や診

断書等を基に御相談いただき、保育の要件に満たしていることが確認できれば、保育園に預けることは可能である。

学務課長

幼稚園での預かり保育については、実施園に在籍する子供たちを対象に実施しており、他園に通われている子の預かりはしていない。現在、各地域に1園ずつ、計3園で実施しているが、先ほどご説明のとおり、預かり保育の需要が一定程度あることについては十分に認識しており、今後、そうした部分の対応についても検討していきたい。

会 長

その他、ご出席の委員からも一言お願いします。

委 員

公立の保育園には園庭があり、施設も広いことから、地域の保育園の核として、積極的に私立保育園との交流を推進していきたい。コロナ禍以前は地域交流として一緒にドッジボールをしたり、私立園の先生たちに対しプール指導やごっこ遊びなどの指導方法を支援するという活動を実施してきた。まだ急には無理だが、今後、地域交流を再開できたらと考えている。

委 員

幼稚園でも、保護者から給食費の無償化や預かり保育についてさまざまなご意見や問合せをいただいているが、教育委員会と連携をとり、今できることを各幼稚園が保護者と協力しながら展開していこうと考えている。

また、委員から話があったような、保育園と幼稚園、小学校の連携ということで、区立幼稚園では、学区域ごとに教員同士、子供同士の交流や事業を見せ合う、保育を見せ合うという連携を図っているが、今後さらに充実させていきたい。コロナでできないから何もしないではなく、どうやったらできるかというスタンスで、本園ではお手紙を互いに出し合う等の活動を行った。今後もできることを創意工夫しながら実施していきたいと考えている。

委 員

本日の委員の意見を聞いて、私のクリニックでも、お子さんが兄弟別々の保育園に通っていて、発熱のたびに園から呼ばれたりして苦労されている保護者がいるが、そういう事象が今後解消していくことを望む。

また、晴海フラッグが入る晴海地区の医療体制や園医の割り振り等の課題があると考えているのでこの場で共有するなど、今後整理していきたいと考えている。

委 員

2年生になると学童クラブに入れられない状況について、区としては「プレディ」で定員を設けずに受けたり、小学校に学童機能を移して「プレディ」との一体利用を考えるとのことだが、定員としては、数を十分受け入れられるかもしれないが、児童館には乳幼児クラブがあり、小学生になったら学童クラブを利用し、中高生になったらボランティアが携わり、大学生になったら一緒に運営を手伝うという、地域の中で一体となって子育てをする拠点という機能や、先ほど意見のあった継続的な居場所という機能があると考えている。各小学校の中で、数さえ満たしているから大丈夫ということではなく、その辺を今後考えていくべきだと思う。

委 員

児童館は、子供たちがいろいろな相談をしたり、本音を聞くことができる



場であり、いろいろな可能性を秘めていると思う。

また、2年生になると学童に入れずに「プレディ」ということだが、2年生もまだ非常に幼く、場所が変わるのはデメリットであるし、質の面でも学童に比べ劣るという意見があり、両事業の差は、随分あると考えているので、学童を小学校に併設するのは、非常に歓迎されるべきことと思う。

あと、先日保育園の運営委員会の際にバス散歩の回数を尋ねたところ、公立園は利用回数が多く、私立園は非常に少なかった。公立のほうが申込みしやすいとか、ハードルが低いとかそういうことがあるか伺いたい。

子育て支援課長

バス散歩は、園庭のない私立園を中心に利用している。区立園は、同じように園庭のない一部の園や、改修工事中で園庭が使用できない園が回数制限を設けながら利用しており、そこまで利用回数は多くない。なお、バス散歩以外に、区立園では遠足という形で個別にバスを借り上げて事業を行っているので、その分を含めると上回る状況になっているのではないかと推測する。

委員

資料2-1について、私も多胎児の母親であり、病院に通う回数も多かったので、助成が充実することはとても良いことと感じた。

また、私が育児をしていた当時、特に多胎児だったので、保育園に申込み以前に、働くハードル、預けるハードルも高かった。先ほど話があったように、一時保育を含めて、登録や申込のハードルが高く諦めている層が一定数いると思う。中央区は地方に比べさまざまな施策があり、非常に充実しているので、必要なサービスを知りたい人がすぐに情報にアクセスでき、必要な支援が素早く届くようになるといいし、来年度実施するニーズ調査でも聞けると良いと思う。

会長

委員の皆さまから地域の声であったり、子育ての現場、当事者の声を聞くことができた。こういった声を大事にしていきたいと考えているし、会議の場で委員同士の顔つなぎにもなるので、今後連携していくなど有効に機能していくとさらに良いと思う。

### 3 閉会